

能登半島地震での DMAT 活動について

医事係長 三田村 槇也

令和6年能登半島地震の被災地に当院のDMAT（Disaster Medical Assistance Team：災害派遣医療チーム）を1月2日～2月1日の間に4隊（1チーム：医師1名、看護師2名、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）1～2名）の隊員合計19名派遣しました。活動は派遣時期により異なった内容となりました。1次隊は珠洲市総合病院でDMAT指揮所の立ち上げや院内で治療のできない患者の搬送手配などの本部活動、2次隊は珠洲市総合病院で救急外来支援や病棟支援などの病院支援、3次隊は避難所のライフライン・生活環境などの把握や診察を行うために避難所巡回や被災者の自宅への往診、4次隊は病院から介護施設・避難所から介護施設などの患者搬送を行いました。地震により建物の倒壊、道の陥没などにより移動が困難な状況であり珠洲市総合病院からの患者搬送はドクターヘリや自衛隊のヘリなどの空路搬送が行われ、避難所巡回では徒歩で巡回する場面もありました。

これまでも東日本大震災や御岳山の噴火、令和元年台風19号災害などで活動してきました。

定期的に行われる全国規模の防災訓練や中部ブロック実動訓練、長野県総合防災訓練、上田市防災訓練などに参加し、有事の際は1人でも多くの命を助けられるよう、今後も取り組んでいきます。





接遇研修を開催しました

看護部長 二瓶 吾紀子

令和5年12月15日（金）、全職員を対象に『医療現場の接遇研修』を開催いたしました。講師は、ANA ビジネスソリューション株式会社の佐藤直美さんです。講師の佐藤さんは、ANA 客室乗務員として国内線・国際線に乗務されていた方です。立っている姿勢がビシッとしてとても綺麗な方でした。

コロナ禍は集合研修ができませんでしたので、院外講師を招いて数年ぶりの集合研修となりました。久しぶりということもあり、ワクワクしながら職員 126 名が講堂に集まりました。

接遇とは、『相手を大切に思う気持ち』で接することです。そして、それが相手に伝わるのが重要です。講義が 30 分、二人一組になって話し方等の演習が 90 分でした。話を聞く側がこういう態度だと、もっと話したい気持ちになるんだなあと実感し、笑顔やアイコンタクトの効果も理解しました。立ち方、お辞儀の仕方、言葉遣い等も改めて教えていただき練習しました。

私が一番印象に残っていることは、研修中の職員の『笑顔』です。患者さんを大切に思う気持ちを一生懸命考え笑顔になっている職員をみて、私もとても嬉しくなりました。

今後も患者さんと職員の笑顔を大切に、笑顔を引き出す接遇教育を実施したいと思います。

